口頭発表 プログラム

(Oral Presentation Program)

招待講演 Plenary Lecture

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

11:15 ~ 12:00

A会場(コンベンションホール)

1PL 招待講演 1 / Plenary Lecture

座長: 服部 成介 (北里大学)

1PL 技術進歩が支えるゲノム科学の発展

○菅野 純夫
東京大学

7月29日(金曜日) July 29 (Fri)

11:15 ~ 12:00

A会場(コンベンションホール)

2PL 招待講演 3 / Plenary Lecture

座長: 朝長 毅 (医薬基盤・健康・栄養研究所)

2PL Comparative protein and RNA analyses of extracellular vesicle subtypes:
functional insights

Maoshan Chen, Rong Xu, Alin Rai, David Greening and ○Richard J. Simpson
La Trobe Institute for Molecular Science (LIMS), La Trobe University, Australia

7月29日(金曜日) July 29 (Fri)

15:45 ~ 16:25

A会場(コンベンションホール)

受賞講演 / Award Lecture

座長: 平野 久(横浜市立大学)

学会賞受賞講演

AW1 融合プロテオミクスを基盤としたシステムズバイオロジーの腫瘍研究への応用
15:45 ~ 16:05 Application of systems biology based on the integrated proteomics for cancer research

○ 荒木 令江¹⁾

1) 熊本大学大学院生命科学研究部(医)腫瘍医学分野

奨励賞受賞講演

AW2 癌悪性化機構の解明を目指したリン酸化プロテオーム解析
16:05 ~ 16:15 Phosphoproteomic analysis to elucidate the mechanisms for malignant transformation of cancers

○ 木村 鮎子¹⁾

1) 横浜市立大学 先端医科学研究センター

AW3 抗体作製を基盤とした肺癌の診断並びに予後予測マーカーの獲得
16:15 ~ 16:25 Acquisition of Diagnostic and Prognostic Markers for Lung Cancer using Generated Antibodies

○ 長塩 亮^{1) 2)}

1) 北里大学医療衛生学部医療検査学科臨床検査学

2) 北里大学大学院医療系研究科応用腫瘍病理学

日本プロテオーム学会賞受賞者一覧

受賞年	氏名・団体名	タイトル
2010年	学会賞	
	磯辺俊明（首都大学東京）	液体クロマトグラフィー-質量分析法を中心とするプロテオーム解析技術の開発とその応用
	中村和行（山口大学）	肝細胞癌の分子病態に関するプロテオーム研究
	学会奨励賞	
	杉山 直幸（慶應義塾大学）	高選択的リン酸化ペプチド濃縮技術の開発とリン酸化プロテオーム解析への応用
	松原 淳一 （国立がん研究センター研究所）	切除不能膀胱がんに対するゲムシタビン療法の副作用・予後予測マーカーの開発
2011年	学会賞	
	山田哲司 （国立がん研究センター研究所）	プロテオーム解析によるがんの診断・治療法の開発
	和田芳直 （大阪府立母子保健総合医療センター）	糖ペプチドの糖鎖解析法の開発とその臨床プロテオミクスへの応用
	奨励賞	
	川島祐介（北里大学）	血清・血漿を対象とした診断マーカータンパク質・ペプチド探索技術の開発とその応用
	菊田 一貴 （国立がん研究センター中央病院）	プロテオーム解析によるユーイング肉腫の個別化医療のためのバイオマーカー開発：標準的治療法の効果予測バイオマーカー・ヌクレオフォスミンの同定と実用化
	研究開発功績賞	
	アステラス製薬(株)プロテオミクス研究チーム（代表：横田博之）	プロテオミクスの創薬研究への応用
2012年	学会賞	
	平野 久（横浜市立大学）	プロテオーム分析技術の体系化と生命医科学研究への応用
	山本 格（新潟大学）	ヒト腎臓病研究へのプロテオミクスの応用と国際連携研究ネットワークの構築
	奨励賞	
	中神 弘史 （理化学研究所）	植物リン酸化プロテオミクス分野の開拓と植物免疫システム理解への応用
	増田 豪（慶應義塾大学）	ショットガンプロテオミクスのための相間移動可溶化法の開発
	研究開発功績賞	
	第一三共RDノバーレ(株)プロテオミクス研究チーム（代表：久保田一石）	プロテオミクス技術の創薬研究への応用
	中外製薬(株)プロテオミクス研究チーム（代表：原村昌幸）	薬剤の作用機序解析および新規標的探索のためのプロテオミクス解析
2013年	学会賞	
	石濱 泰（京都大学）	プロテオミクスおよびリン酸化プロテオミクスに関する基盤技術の開発と応用
	高橋 信弘（東京農工大学）	タンパク質複合体のプロテオミクスに関する先駆的研究
	成松 久（産業技術総合研究所）	グライコプロテオミクス研究の基盤技術開発とその応用
	奨励賞	
	植田 幸嗣 （理化学研究所）	グライコプロテオーム解析技術の開発と糖鎖標的腫瘍マーカーの同定
	木村 弥生（横浜市立大学）	タンパク質の翻訳後修飾の解析
	曾川 一幸（麻布大学）	MALDI-TOF MSによるMRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)の迅速検出法の開発
	荒川 憲昭（横浜市立大学）	培養細胞を利用した新規卵巣がん血清診断マーカー候補蛋白質の同定
	研究開発功績賞	
	メディカル・プロテオスコープ(株) （代表：川上隆雄）	質量分析を基盤とした臨床プロテオーム解析事業の確立
	東レ(株)（代表：鄭基晩）	血清中の超微量タンパク質の探索に関する新規手法の開発

受賞年	氏名・団体名	タイトル
2014年	学会賞	
	小田吉哉 (エーザイ(株))	質量分析を用いた定量プロテオミクスにおける先駆的基盤技術の開発
	野村文夫 (千葉大学)	プロテオミクスの臨床検査応用に関する研究
	奨励賞	
	荒川 憲昭 (横浜市立大学)	培養細胞を利用した新規卵巣がん血清診断マーカー候補蛋白質の同定
	小林 大樹 (熊本大学)	融合プロテオミクスによる神経系腫瘍の細胞内特異的タンパク質の解析
	研究開発功績賞	
	エーザイ(株) (代表: 小田吉哉)	プロテオミクスにおける新規手法開発と創薬への応用
	功労賞	
	戸田 年総 (横浜市立大学)	
	前田 忠計 (北里大学)	
2015年	学会賞	
	朝長 毅 (医薬基盤研究所)	定量プロテオミクスを用いた疾患バイオマーカー探索とその医療への応用
	服部成介 (北里大学)	プロテオミクス技術による細胞内シグナル伝達系の解析
	奨励賞	
	村岡 賢 (医薬基盤研究所)	膜タンパク質を標的とした抗体医薬、診断バイオマーカー開発のためのプロテオミクス基盤技術の確立
	足立 淳 (医薬基盤研究所)	バイオマーカー・コンパニオンマーカー開発のためのプロテオミクス基盤技術の確立
	研究開発功績賞	
	ライオン(株) (代表: 村越倫明)	プロテオミクスの機能性食品開発研究への活用: ラクトフェリンの内臓脂肪低減メカニズムの解析
	功労賞	
	吉田 豊 (新潟大学)	
2016年	学会賞	
	荒木 令江 (熊本大学)	融合プロテオミクスを基盤としたシステムズバイオロジーの腫瘍研究への応用
	奨励賞	
	木村 鮎子 (横浜市立大学)	癌悪性化機構の解明を目指したリン酸化プロテオーム解析
	長塩 亮 (北里大学)	抗体作製を基盤とした肺癌の診断並びに予後予測マーカーの獲得

HUPO学会賞受賞者一覧

受賞年	氏名・団体名	タイトル
2004年	HUPO Young Investigator Award	
	近藤 格 (国立がん研究センター研究所)	Proteomics of lymphoid neoplasms - Proteome-mining for 2D gel
2015年	HUPO 国際賞	
	谷口直之 (大阪大学医学部)	HUPO Distinguished Service Award

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

9:00 ~ 11:00

A会場(コンベンションホール)

1S1 シンポジウム 1 / Symposium 1

座長: 松本 雅記(九州大学)
大槻 純男(熊本大学)**Technological Advances in Proteomics**
(プロテオミクス技術の最前線)**1S1-01** 「なんでも尿検査」を支援するマルチプロテオミクスワークフローの構築

9:00 ~ 9:24 Multi-workflow of Proteomics for All-in-one Urine Test in BB-C of Niigata University

○許 波¹⁾、平尾 嘉利¹⁾、山本 格¹⁾
1) 新潟大学 生体液バイオマーカーセンター**1S1-02** 新生タンパク質定量による細胞応答解析

9:24 ~ 9:48 (一を調べて十を知る細胞プロファイリング)

Proteomic approach to analyze the multi-layered regulation of cellular response.

○足達 俊吾¹⁾、八田 知久¹⁾、夏目 徹¹⁾
1) 産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター (molprof)
機能プロテオミクスチーム**1S1-03** 新極微量試料のプロテオーム解析手法の開発

9:48 ~ 10:12 ~1細胞プロテオーム解析プラットフォームの構築を目指して~

Proteome Profiling from Minuscule Amount of Samples:
Toward a single-cell proteomics platform○若林 真樹¹⁾²⁾
1) 京都大学大学院薬学研究科、2) JSTさきがけ**1S1-04** iMPAQT: 組換えタンパク質を利用したタンパク質絶対定量プラットフォーム

10:12 ~ 10:36 iMPAQT: in vitro proteome assisted multiple reaction monitoring for protein absolute quantification

○松本 雅記¹⁾、中山 敬一²⁾
1) 九州大学 生体防御医学研究所プロテオミクス分野、
2) 九州大学 生体防御医学研究所 分子医科学分野**1S1-05** MS/MS ALL (SWATH-MS)を活用したエコ・プロテオミクスへの展開

10:36 ~ 11:00 Approach toward Eco-Proteomics utilizing MS/MS ALL (SWATH-MS)

○大槻 純男¹⁾²⁾、平山 未央¹⁾²⁾、伊藤 慎悟¹⁾²⁾
1) 熊本大院生命科学、2) AMED-CREST

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

9:00 ~ 11:00

B会場(2号館2F 2201)

1S2 シンポジウム 2 / Symposium 2

座長: 本田 一文 (国立がん研究センター研究所)
上家 潤一 (麻布大学)

Basic Disease Biology (疾患研究におけるプロテオミクス技術)

- 1S2-01** アレイを使って特定糖タンパク質上の糖鎖を比べる ~原理とその応用~
9:00 ~ 9:24 Concept for focused differential glycan profiling by means of lectin array
- 久野 敦¹⁾
1) 産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門
- 1S2-02** ImmunoLMD-標的定量プロテオミクスを用いた肝臓輸送・代謝機能の
9:24 ~ 9:48 ヘテロジェナイティの解明
Heterogeneity of liver transport and metabolism determined
by immunoLMD- quantitative proteomics
- 立川 正憲¹⁾、墓田 由佳¹⁾、住吉谷 優奈¹⁾、内田 康雄¹⁾、大槻 純男²⁾、
寺崎 哲也¹⁾
1) 東北大学大学院薬学研究科、2) 熊本大学大学院生命科学研究部
- 1S2-03** 新規ガス受容体 PGRMC1 の構造的機能制御の解明
9:48 ~ 10:12 Haem-dependent dimerization of PGRMC1/sigma-2 receptor facilitates
cancer proliferation and chemoresistance
- 加部 泰明¹⁾
1) 慶應義塾大学医学部医化学教室
- 1S2-04** EMARS法によるタンパク質複合体解析：腎糸球体上皮細胞足突起間接着装置を
10:12 ~ 10:36 構成するタンパク質群の同定
公募演題 Identification of junctional complex of podocyte foot processes
in kidney glomerulus by EMARS method
- 吉田 豊¹⁾²⁾、瀧本 裕基¹⁾、小谷 典弘³⁾、矢尾板永信¹⁾
1) 新潟大学医歯学総合研究科腎研究センター、2) 新潟大学研究推進機構、
3) 埼玉医科大学生化学講座
- 1S2-05** AA アミロイド症の比較病理学
10:36 ~ 11:00 Comparative Pathology of AA amyloidosis
- 上家 潤一¹⁾
1) 麻布大学

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

15:55 ~ 18:40

英語 A会場(コンベンションホール)

1S3 シンポジウム 3 / Symposium 3

座長: 植田 幸嗣 (がん研究会 ゲノムセンター)
黒田 真也 (東京大学)

TransOmics (トランスオミクス)

1S3-01 Data-independent acquisition (DIA) mass spectrometry and RNA-seq
for comprehensive profiling of proteomes and proteogenomics
15:55 ~ 16:40

招待講演 2

○ Akhilesh Pandey¹⁾

1) Johns Hopkins University, Baltimore, Maryland, USA

1S3-02 中心代謝のトランスオミクス解析
16:40 ~ 17:04 Trans-omics analysis of the central metabolism in yeast

○ Fumio Matsuda^{1) 2)}

1) Osaka University, 2) RIKEN CSRS

1S3-03 *In vivo* トランスオミクス解析を目指して
17:04 ~ 17:28 Toward *in vivo* Trans-omic analysis

○ 久保田 浩行^{1) 2)}、松崎 美美子¹⁾、宇田 新介¹⁾、黒田 真也^{3) 4)}

1) 九州大学、2) JST さきがけ、3) 東京大学、4) JST CREST

1S3-04 大規模コホートにおけるトランスオミクス解析
17:28 ~ 17:52 Transomics analysis in a large-scale cohort study

○ 三枝 大輔^{1) 2) 3)}、元池 育子^{1) 4)}、小柴 生造^{1) 2)}1) 東北大学東北メディカル・メガバンク機構、2) 東北大学大学院医学系研究科、
3) AMED-CREST、4) 東北大学大学院情報科学研究科

1S3-05 トランスオミクス解析による代謝制御機構の網羅的再構築
17:52 ~ 18:16 Comprehensive reconstruction of regulatory pathways for metabolism
by trans-omic analysis

○ 柚木 克之^{1) 2)}、久保田 浩行^{2) 3)}、黒田 真也^{1) 4)}

1) 東京大学、2) JST さきがけ、3) 九州大学、4) JST CREST

1S3-06 トランスオミクス解析を用いたがんオーダーメイド免疫療法の開発
18:16 ~ 18:40 Trans-OMICS analysis of immunopeptidome for development of personalized
cancer immunotherapy

○ 植田 幸嗣¹⁾

1) がん研究会 ゲノムセンター がんオーダーメイド医療開発プロジェクト

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

16:40 ~ 18:40

B 会場 (2号館2F 2201)

1S4 シンポジウム 4 / Symposium 4

座長: 小松 節子 (農研機構)
紀藤 圭治 (明治大学)

Interspecific Diversity (生物種間の多様性)

1S4-01 酵母種間の比較プロテオミクス

16:40 ~ 17:04 Interspecies comparative proteomics for multiple yeast organisms

○ 紀藤 圭治¹⁾

1) 明治大学・農学部

1S4-02 多検体中の特定タンパク質の絶対量を低コストかつ簡便で正確に定量

17:04 ~ 17:28 ~抗体や質量分析を用いない絶対定量法~

Absolute quantification of specific protein in multiple samples easily and precisely at low cost

○ 小林 征洋¹⁾

1) 東京海洋大学大学院海洋生物資源学部門

1S4-03 進化プロテオミクスによる植物免疫システムの理解

17:28 ~ 17:52 Evolutionary proteomics to understand plant immune system

四井いずみ¹⁾、松井 英讓¹⁾²⁾、玄 康洙¹⁾、野村 有子¹⁾、西浜 竜一³⁾、河内 孝之³⁾、
○中神 弘史¹⁾⁴⁾

1) 理研CSRS、2) 岡山大学院環境生命、3) 京都大院生命科学、

4) マックス・プランク植物育種学研究所

1S4-04 湿害耐性に対するダイズ品種系統間の比較プロテオミクス解析

17:52 ~ 18:16 Comparative Proteomic Analysis of Soybean Varieties and Lines on Flooding Tolerance

○ 小松 節子¹⁾、南條 洋平¹⁾²⁾、西村 実³⁾

1) 農研機構・次世代作物開発研究センター、2) 農研機構、3) 新潟大学

1S4-05 細胞膜プロテオミクス解析による低温応答機構の植物間差異の解析

18:16 ~ 18:40 Plasma Membrane Proteomics to Understand Interspecific Differences in Plant Cold Responses

高橋 大輔¹⁾²⁾、河村 幸男¹⁾、○上村 松生¹⁾

1) 岩手大学、2) (現) マックスプランク研究所

7月29日(金曜日) July 29 (Fri)

9:00 ~ 11:00

英語 A会場(コンベンションホール)

2S5 シンポジウム 5 / Symposium 5

座長: 山田 哲司(国立がん研究センター研究所)
長野 光司(中外製薬)

Clinical Proteomics (プロテオミクス技術の臨床応用)

2S5-01 Integrating multiple 'omics' approach for discovering a novel mechanism of fluorouracil (5-FU) resistance in colorectal cancer.
9:00 ~ 9:27

招待講演 4

○ Kwang Pyo Kim¹⁾

1) Department of Applied Chemistry, Kyung Hee University

2S5-02 抗体医薬モニタリングは安全で有効な癌化学療法に重要：
9:27 ~ 9:49 定量的標的プロテオミクスの個人差の解析への応用

Antibody drug monitoring (ADM) is important for safe and efficient cancer chemotherapy: Application of quantitative targeted absolute proteomics (QTAP) for the analysis of interindividual difference

○寺崎 哲也¹⁾、山際 康基¹⁾、江幡 由佳¹⁾、岩佐 悟²⁾、高橋 直樹²⁾、山田 康秀²⁾、山田 哲司³⁾、本田 一文³⁾、内田 康雄¹⁾、大槻 純男⁴⁾、立川 正憲¹⁾

1)東北大学、2)国立がん研究センター中央病院、3)国立がん研究センター研究所、4)熊本大学大学院薬学研究部

2S5-03 ヒト血漿中のペプチドの網羅的解析を目指して
9:49 ~ 10:11 Peptidome Analysis of Human Plasma

○小寺 義男¹⁾²⁾、斎藤 達也¹⁾²⁾³⁾、川島 祐介¹⁾²⁾、谷 祐至³⁾、七里 眞義³⁾

1)北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、2)北里大学理学部物理学科生物物理学講座、3)北里大学医学部内分泌代謝内科

2S5-04 Large-scale determination of absolute phosphorylation stoichiometries in cancer cell
10:11 ~ 10:38

招待講演 5

○Yu-Ju Chen¹⁾

1) Institute of Chemistry, Academia Sinica, Taiwan

2S5-05 逆相タンパク質アレイを用いた新規TNIK阻害薬で制御されるシグナル経路の網羅的解析
10:38 ~ 11:00

Global pathway profiling of a novel TNIK inhibitor using RPPA

増田 万里¹⁾、宇野 佑子²⁾、井上 剛臣²⁾、澤 匡明²⁾、○山田 哲司¹⁾

1)国立がん研究センター研究所 創薬臨床研究分野、2)カルナバイオサイエンス株式会社

7月 29日 (金曜日) July 29 (Fri)

16:40 ~ 18:20

A 会場 (コンベンションホール)

2S6 シンポジウム 6 / Symposium 6

座長: 石濱 泰 (京都大学大学院薬学研究科)
川崎 ナナ (横浜市立大学)

Post Translational Modifications (翻訳後修飾のプロテオミクス)

2S6-01 1分子イメージングにより明らかになったガングリオシドの糖鎖相互作用による
EGF 受容体活性制御機構

16:40 ~ 17:10

Single-molecule study of regulation mechanisms of EGF receptor activity
by ganglioside sugar-chains

○鈴木 健一¹⁾²⁾

1) 京都大学物質-細胞統合システム拠点、2) インド幹細胞・再生医学研究所

2S6-02 ユビキチン修飾の全容解明を目指して：Parallel Reaction Monitoring 法による
ユビキチン鎖の超高感度絶対定量法の開発と応用

17:10 ~ 17:40

Trans-omics analysis of the central metabolism in yeast

○佐伯 泰¹⁾、土屋 光¹⁾、大竹 史明¹⁾、田中 啓二¹⁾

1) 東京都医学総合研究所

2S6-03 プロテオミクス解析を用いた膜タンパク質のシェディング感受性決定機構の解析
Proteomic analysis of regulatory mechanisms of ectodomain shedding

17:40 ~ 18:00

公募演題○白壁 恭子¹⁾、大村 卓也¹⁾、柴垣 芳夫²⁾、高木 淳一³⁾、服部 成介²⁾、小川 佳宏¹⁾

1) 東京医科歯科大学、2) 北里大学、3) 大阪大学

2S6-04 異なる特異的リン酸化カスケードによる微小管脱重合蛋白質の制御機構
Microtubule Destabilizer Undergoes Distinct Phosphorylation Cascades
for Neuronal Morphogenesis

18:00 ~ 18:20

公募演題○小川 覚之¹⁾²⁾、廣川 信隆¹⁾²⁾

1) 東京大学 大学院医学系研究科 細胞生物学解剖学教室、2) 分子構造動態病態学講座

7月29日(金曜日) July 29 (Fri)

16:40 ~ 18:10

B 会場 (2号館2F 2201)

2S7 シンポジウム 7 / Symposium 7

座長: 荒木 令江 (熊本大学)

河野 信 (ライフサイエンス統合データベースセンター)

Informatics & Systems Biology (インフォマティクスとシステムバイオロジー)

2S7-01 プロテオームインフォマティクス&システムズバイオロジー研究への招待

16:40 ~ 16:55

Call for researchers for proteome informatics & systems biology

○河野 信¹⁾、荒木 令江²⁾

1) ライフサイエンス統合データベースセンター、2) 熊本大学

2S7-02 プロテオーム統合データベース jPOST の開発

16:55 ~ 17:20

Development of jPOST ? Integrated Database of Proteomes

○五斗 進¹⁾、奥田修二郎²⁾、渡邊 由²⁾、守屋 勇樹³⁾、河野 信³⁾、山本 格²⁾、松本 雅記⁴⁾、高見 知代⁴⁾、小林 大樹⁵⁾、荒木 令江⁵⁾、吉沢 明康¹⁾、田畑 剛¹⁾、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学、2) 新潟大学、3) ライフサイエンス統合データベースセンター、4) 九州大学、5) 熊本大学

2S7-03 統計的に有意な高次の相乗効果の検出を可能にする多重検定補正法

17:20 ~ 17:45

Multiple testing procedure to detect statistically significant high-order interactions

○寺田 愛花¹⁾²⁾³⁾

1) JST さきがけ、2) 東京大学、3) 産業技術総合研究所

2S7-04 データベース構築とキナーゼ基質予測を用いた大規模発現/翻訳語修飾

17:45 ~ 18:10

プロテオーム解析

Large-scale proteome analysis based on integrated database and predicted kinase substrates

○杉山 直幸¹⁾、三宅 里美¹⁾、坂本 大¹⁾、Pasrawin Taechawattananant¹⁾、若林 真樹¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科

Meet the Expert

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

8:25 ~ 8:50

A会場(コンベンションホール)

1ME1 Meet the Expert 1

座長: 尾野 雅哉 (国立がん研究センター研究所)

1ME1 多検体定量プロテオーム解析のための迅速な前処理分画法

Rapid sample preparation and fractionation method for large-scale quantitative proteome analysis.

○ 足立 淳¹⁾

1) 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 プロテオームリサーチプロジェクト

8:25 ~ 8:50

B会場(新2号館2F 2201講義室)

1ME2 Meet the Expert 2

座長: 若林 真樹 (京都大学大学院薬学研究科)

1ME2 高感度リン酸化プロテオーム解析

Highly sensitive and high-throughput analysis of phosphoproteome

○ 木村 弥生¹⁾

1) 横浜市立大学、先端医科学研究センター

7月29日(金曜日) July 29 (Fri)

9:00 ~ 9:50

B会場(2号館2F 2201)

2ME3, 4 Meet the Expert 3, 4

座長: 榊原 陽一 (宮崎大学)

2ME3 エクソソームの精製法とプロテオーム解析

9:00~9:25 Exosome purification technologies for proteome analysis

○ 植田 幸嗣¹⁾

1) がん研究会 ゲノムセンター がんオーダーメイド医療開発プロジェクト

2ME4 トランスクリプトミクスの勃興と停滞の歴史から、プロテオミクスのデータ解析ソフトウェア基盤を考える

9:25~9:50 Lessons for software platforms of proteomics elicited from the history of transcriptomics.

○ 田部 暁郎¹⁾

1) 株式会社 Subio

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

14:45 ~ 15:45

A会場(コンベンションホール)

1Y1 若手口頭発表 1 / Young Scientist Presentation 1

座長: 木下 英司(広島大学大学院)

1Y1-01 新規バイオマーカー探索のための包括的ペプチドデータベースの構築とその応用

14 : 45~14:57 Human native Peptidome database for Peptidomics studies.

ポスター発表

2P-23

○Amr Elguoshy¹⁾²⁾, Sameh Magdeldin¹⁾, Yoshitoshi Hirao¹⁾, Bo Xu¹⁾, Suguru Saito¹⁾, Ali FQuadery¹⁾, Keiko Yamamoto¹⁾, Tadashi Yamamoto¹⁾

1) Niigata University, Biofluid Biomarker Center

2) Biotechnology department, Faculty of Agriculture, Al-azhar University.

1Y1-02 新規HTLV-1関連疾患の分子標的薬開発を目指した網羅的細胞表面

14 : 57~15:09 プロテオーム解析

ポスター発表

2P-13

Comprehensive cell surface proteomics analysis aiming at discovering Novel therapeutic targets for HTLV-1 associated disease

○村岡 賢¹⁾、内丸 薫²⁾、宇都宮 與³⁾、山野 嘉久⁴⁾、植田 幸嗣¹⁾

1) 公益財団法人・がん研究会・ゲノムセンター・プロテオミクス解析グループ、

2) 東京大学・医科学研究所・附属病院・血液腫瘍内科、

3) 公益財団法人慈愛会・今村病院分院・血液内科、

4) 聖マリアンナ医科大学・大学院附属研究所・難病治療研究センター・病因・病態解析部門

1Y1-03 TGF- β (β 型変異増殖因子)を利用した癌転移メカニズムの解析15 : 09~15:21 Analysis of cancer metastasis mechanism using TGF- β

ポスター発表

1P-15

○岡山 明子¹⁾、木村 弥生¹⁾、梁 明秀²⁾、平野 久¹⁾

1) 横浜市立大学 先端医科学研究センター、

2) 横浜市立大学 大学院医学研究科 微生物学・分子生体防御学

1Y1-04 チロシンリン酸化プロテオミクスによる大腸がんCetuximab耐性克服標的の探索

15 : 21~15:33 Phosphotyrosine proteomics reveal novel targets to overcome resistance to Cetuximab.

ポスター発表

1P-17

○阿部 雄一¹⁾、清水麻衣子¹⁾、多田 亜沙¹⁾、足立 淳¹⁾、朝長 毅¹⁾

1) プロテオームリサーチプロジェクト、医薬基盤・健康・栄養研究所

1Y1-05 細胞内リン酸化プロテオームプロファイルからキノーム活性を予測する

15 : 33~15:45 Prediction of cellular kinome activity using phosphoproteome profiles

ポスター発表

1P-32

○高橋 知里¹⁾、今村 春菜^{1,2)}、矢崎 達也¹⁾、若林 真樹¹⁾、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院 薬学研究科、2) 欧州分子生物学研究所、欧州バイオインフォマティクス研究所

7月28日(木曜日) July 28 (Thu)

14:45 ~ 15:45

B 会場 (2号館2F 2201)

1Y2 若手口頭発表 2 / Young Scientist Presentation 2

座長: 小寺 義男 (北里大学)

1Y2-01 Quantitative phosphoproteomics approach for kinase-mediated protein phosphorylation stoichiometry

14 : 45~14:57

ポスター発表
1P-31○テチャワッタナナン パラウイン¹⁾、坂本 大¹⁾、若林 真樹¹⁾、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科

1Y2-02 キナーゼ特異性を有する人工基質ペプチドを用いたヒトキノーム活性プロファイリング

14 : 57~15:09

ポスター発表
1P-33

Kinome activity profiling using artificial substrate peptides with kinase specificity

○坂本 大¹⁾、石川菜津美¹⁾、Pasrawin Taechawattananant¹⁾、若林 真樹¹⁾、杉山 直幸¹⁾、石濱 泰¹⁾

1) 京都大学大学院薬学研究科

1Y2-03 Thio-tag Tip を用いたチオール基含有化合物の選択的分離精製法

15 : 09~15:21

ポスター発表
1P-35

Thio-tag Tip method for selective separation of thiol containing compounds

○草本 寛¹⁾、芝 晃生¹⁾、是竹 紀尚¹⁾、木下恵美子¹⁾、木下 英司¹⁾、小池 透¹⁾

1) 横浜市立大学 先端医科学研究センター、

2) 横浜市立大学 大学院医学研究科 微生物学・分子生体防御学

1Y2-04 新規カルシウム依存性アシルトランスフェラーゼの同定

15 : 21~15:33

ポスター発表
1P-39

PLA2G4E is a calcium-dependent acyltransferase that produces N-acylphosphatidylethanolamines

○Yuji Ogura^{1) 2)}, William H. Parsons²⁾, Siddhesh S. Kamat²⁾, Benjamin F. Cravatt²⁾

1) Daiichi Sankyo RD Novare, 2) The Scripps Research Institute

1Y2-05 マウス精巣由来ヒストンバリエーションのトップダウン質量分析

15 : 33~15:45

ポスター発表
1P-14

MS-based top-down analysis of histone variants in the mouse testis

○Ho-Geun, Kwak^{1) 2)}, Naoshi Dohmae^{1) 2)}

1) RIKEN CSRS 2) Graduate school of science and engineering, Saitama University

7月29日(金曜日) July 29 (Fri)

10:00 ~ 11:00

B会場(2号館2F 2201)

2Y3 若手口頭発表 3 / Young Scientist Presentation 3

座長: 山本 格 (新潟大学)

2Y3-01 TRIzol 試薬による同一試料からの RNA・タンパク質連続抽出法を用いた
10:00~10:12 トランスオミクス解析

ポスター発表
2P-32

Trans-omic analyses of sequentially isolated RNAs/proteins in human cells using a TRIzol reagent

○川島 祐介¹⁾、宮田 純¹⁾、渡辺 貴志¹⁾、有田 誠¹⁾²⁾、小原 収¹⁾³⁾

1) 理化学研究所IMS、2) 横浜市立大学、3) かずさDNA研究所

2Y3-02 生物に広く存在するアシル化修飾の働き：アセチル化、プロピオニル化、
10:12~10:24 スクシニル化

ポスター発表
1P-38

Post-translational acylations occurring in a wide range of organisms: lysine acetylation, propionylation, and succinylation

○岡西 広樹¹⁾²⁾³⁾、小林 大樹¹⁾、荒木 令江¹⁾、増井 良治²⁾、倉光 成紀³⁾

1) 熊本大学 大学院生命科学研究部、2) 大阪市立大学 大学院理学研究科、

3) 大阪大学 大学院理学研究科

2Y3-03 LC/MS/MS とエンドグリコシダーゼ F1,F2,F3 を用いたヒト大腸がん由来細胞株
10:24~10:36 のグライコフォーム解析

ポスター発表
1P-26

Glycoform Analysis of Human Colon Cancer Cell Lines Using LC/MSMS and Endoglycosidase F1, F2 and F3

○亀田康太郎¹⁾、太田 悠葵¹⁾、川崎 ナナ¹⁾

1) 横浜市立大学院生命医科学研究科プロテオーム科学研究室

2Y3-04 組織グライコムマッピングに向けた、レーザーマイクロダイセクション-
10:36~10:48 レクチンアレイ法の改良

ポスター発表
1P-25

An improved method of laser microdissection and lectin microarray for tissue glycome mapping

○岡谷(永井) 千晶¹⁾、Xia Zou²⁾、吉田 真樹¹⁾、佐藤 隆¹⁾、松田 厚志¹⁾、

萩原 梢¹⁾、板倉 陽子³⁾、野呂絵里花¹⁾、豊田 雅士³⁾、Sheng-Ce Tao²⁾、

Yan Zhang²⁾、成松 久¹⁾、久野 敦¹⁾

1) 産業技術総合研究所創薬基盤研究部門、2) 上海交通大学上海系統生物医学研究センター、

3) 東京都健康長寿医療センター研究所 血管医学研究

2Y3-05 肥満モデルマウスを活用したトランスオミクスの実現とその有用性の検証に
10:48~11:00 関する研究

ポスター発表
2P-29

Study about the benefit about trans-omics technique using diet-induced obese mouse liver

○高橋祥子¹⁾、斉藤憲司¹⁾、加藤久典¹⁾

1) 東京大学